

1. 木質バイオマス関連情報

■広葉樹の発電燃料化や伐木減、群馬県内のキノコ生産者の経営を圧迫。群馬県は生シイタケが全国 5 位、ナメコは同 7 位の生産県。これらキノコの菌床栽培に使用される広葉樹のおが粉が不足し、価格が倍近くまで高騰している。現在おが粉は 1 m³ 当たり 1 万円以上となり、2019 年比で約 260 万円/年出費が増加。木材の切り手不足や、東京電力福島第 1 原発事故による影響で伐木量が減少する中、おが粉が国が推進する木質バイオマス発電の燃料として大量に使われていることが一因とみられる。関係者からはおが粉の適正な流通販売や林業支援を求める声が上がっている【上毛新聞：2023/11/21】

<https://www.jomo-news.co.jp/articles/-/378484>

■三井金属鉱業（株）（東京）、11 月 20 日に ESG 説明会を開催。グループ会社の三池製錬（株）（福岡）で試験を進めているバイオマス燃料による石炭代替や八戸製錬（株）（青森）での代替燃料活用によるコークス使用量削減、工場の排ガスからの CO₂ 回収技術開発など、CO₂ 排出量削減に向けた新技術導入の進捗よく状況なども紹介した。三池製錬では製錬工程で使用している石炭・コークスをバイオマス由来の燃料に転換するための技術開発を進めており、今年 9 月にはバイオマス燃料 70% 操業を実施。実現性を確認した。今後はコストや供給安定性などを踏まえた新規バイオマス燃料の探索や供給先の確保などに努める。また、八戸製錬など他の製錬所への展開に向けた課題解決などに取り組む予定【Yahoo! Japan ニュース：2023/11/21、三井金属鉱業（株）：2023/11/20】

<https://news.yahoo.co.jp/articles/5b5d89c35a7ed5d95f12b653ceba92baaaaa4bf>

[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=%2bf0SFKUPXA%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=%2bf0SFKUPXA%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=%2bf0SFKUPXA%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0)

■宮城県石巻市のバイオマス発電について、住民団体らが FIT 認定取り消しを国に要請。石巻市須江に建設予定の G-Bio 石巻須江バイオマス発電所（出力 102,750kW）を巡り、認定特定非

営利活動法人 FoE Japan（東京）、須江地区保護者の会、ウータン・森と生活を考える会（大阪）の 3 団体が、経産省に対し FIT の認定を取り消すよう求める要請書を提出（11 月 21 日）。要請書では、同事業が住民の強い反対があるにもかかわらず強行されようとしていること、事業者である合同会社 G-Bio 石巻須江（東京）の燃料をめぐる説明が二転三転していることを指摘。燃料として使われるパーム油需要の増大が、東南アジアでの森林減少の要因になっていることを上げ、FIT 認定の取り消しとパーム油を FIT 認定の対象から外すことを要請している。発電設備は 2017 年 2 月 22 日に FIT 認定されており、運転開始時期は 2025 年の予定【河北新報：2023/11/22、FoE Japan：2023/11/21、G-Bio 石巻須江発電所】

<https://kahoku.news/articles/20231121khn000086.html>

<https://foejapan.org/issue/20231121/14970/>

<https://g-bio-ishinomaki.com/>

■長野県林務部、塩尻市にある「信州 F・パワープロジェクト」の木質バイオマス発電所等が燃料不足に直面している問題を受け、対策を公表（11 月 22 日）。同プロジェクトは県や塩尻市、燃料調達を担った征矢野建材（株）（長野）が連携して推進してきたが、征矢野建材は多額の保証金支払い債務を抱え、8 月に民事再生法適用を申請。これを受け、県は専門家を交えた「原木安定供給等検討チーム」を設置。同プロジェクトを含む県内 4 か所の木質バイオマス発電所の燃料確保策などを検討していた。県林務部によると、4 つの発電所が必要とする燃料チップは 25 万 m³/年だが、県内の山から供給されるのは 16 万 m³/年。しかし伐採後の枝葉を移動式チップで燃料に加工すれば、追加で 15 万 m³/年生産できるポテンシャルがあるとして、山中の現場付近でチップに加工する民間の取り組みを補助することを対策の柱とした。チップなどのレンタル経費や作業に使う土場の利用費などに対して補助するもので、11 月定例議会に提出する本年度一般会計補正予算案に経費 6,050 万円を計上し、採択された。県林務部は伐採に当たる林業会社とチップ加工会社、発電所の連携が希薄だったことが枝葉の未活用につながっ

たと指摘。今回の補助金は、林業会社と発電所などでグループを作り申請する仕組みを採り、連携強化を促す【信濃毎日新聞：2023/11/23、NHK NEWS WEB:2023/11/22、2023/12/15、長野県：2023/12/05】

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2023112300103>
<https://www3.nhk.or.jp/lnews/nagano/20231122/1010028838.html>

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/nagano/20231215/1010029075.html>
<https://www.pref.nagano.lg.jp/rinsei/kensei/soshiki/yosan/r5/11ho.html>

■佐賀県佐賀市、11月27日の市議会全員協議会で、市バイオマス産業都市構想に位置付けた事業化プロジェクトのうち、微細藻類培養によるバイオジェット燃料事業を断念することを説明。同市は2014年に「バイオマス産業都市構想」を策定。構想に掲げている6事業のうちの一つが微細藻類培養に関する項目となっており、同年2月には（株）ユーグレナ（東京）と共同研究契約を締結。しかし技術を担うユーグレナ社が今年12月をめどに市内の研究施設を閉鎖する方針を示したため、「事業化は困難」と判断【佐賀新聞：2023/11/27】

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/1150102>

■北海道幌加内町、きたそらち農業協同組合（北海道）、エア・ウォーター（株）（大阪）、JFE 条鋼（株）（東京）、（株）巴商会（東京）の5者で、「幌加内町バイオマス有効活用コンソーシアム」を設立。北海道庁「ゼロカーボン・イノベーション導入支援事業」補助金に応募し、「そば殻を原料に用いた低コストバイオコークス製造技術の実証事業」で採択された（11月8日）。2,900t/年を超えるそばを生産しており、そば殻やそば残渣（未熟種子、茎等）が大量に発生する幌加内町で、道内初の商用化を前提としたバイオコークス実証事業に取り組む。第1段階では乾燥を必要としない「そば殻」「そば残渣」「籾殻」を原料とし、乾燥プロセスを経由しない製造コストミニマムなバイオコークス製造プロセスを検討。第2段階では水分を含むバイオマスを原料に製造したバイオコークスの一部を乾燥熱源として使用するバイオコークス製造プロセスを検討する。直径60mm×長さ60mmと石炭コークスと同等の大きさとし、製造能力1t/日を目指す。さらに、利用実証として本事業で試作したバイオコークスサンプルを用いて、幌加内町公共施設にバイオコー

クス温水ボイラを設置して行う温水供給の実証を行い、JFE 条鋼豊平製造所の電気炉において石炭コークス代替の実証を行っていく【エア・ウォーター（株）：2023/11/27】

<https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-20231127621559292357.html>

■廃食油リサイクルの浜田化学（株）（兵庫）、廃食油を直接重油に混合したバイオ燃料での船の運航に成功したと発表。海上実証実験では内航船2隻を対象に、通常使用されている船用燃料のLSC重油にStraight Vegetable Oil（以下、SVO）を段階的に混合し、その有効性を検証。実験で使用したSVOは同社が船舶燃料用に品質管理を行い、阪和興業（株）（東京）に納入したもので、約1か月の実証実験の間SVO24%添加の船用燃料を使用し、燃焼性などに問題がないことを確認した。SVOは加工処理を施していないバイオ燃料のため、加工処理の際に発生するCO₂を伴わず、CO₂の削減が期待できるほか、生成プロセスが少ないため他のバイオ燃料に比べ調達が容易で低コストで実現が可能。この技術を活かし、飲食店やコンビニから排出される廃食油を使用した燃料で船舶を運航し、再び食材や商品を飲食店やコンビニに届けることによる、資源循環を実現する【浜田化学（株）：2023/12/05】

<file:///C:/Users/user/Downloads/d134086-1-c1bbc830d2bf90ffab685922e60b38b5-1.pdf>

■長野県小布施町、11月24日に木質バイオマス熱利用に関する勉強会・見学会を開催。同町は「ゼロ・カーボン」へ向けた取り組みの一環として、町内の農地や庭木等から出る剪定枝や須高地域の山林資源を活用し、暖房や給湯などの熱エネルギーに利用する実証を開始している。町公民館で行われた「須高地域で考える木質バイオマス熱利用のあり方勉強会」では、東京大学名誉教授の鮫島正浩氏の基調講演をはじめ、林野庁地域内エコ・システム事業として昨年度実施してきた調査結果の報告等、町の事業に関わる数名の講師が講演し、パネルディスカッションが行われた。勉強会後のフィールドワークではチップ焚きボイラを園芸ハウス加温に利用しはじめた「おぶせフラワーセンター」にバスで移動。移動式チップパによる実演と11月から実証実験を開始したチップボイラの見学会が行われた【OSR No.588：2023/12/06、町報おぶせ12月号:2023/12月】

https://www.town.obuse.nagano.jp/fs/1/6/2/8/9/5/_/2312H_P.pdf

■(株) ジャパンインベストメントアドバイザー(東京)、NEDO 公募の「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」に採択された「中四国に於けるユーカリを活用したエネルギーの森実証事業」を事業開始したと発表。木質バイオマスエネルギー供給問題の課題に対して、ユーカリを活用した燃料の安定的・効率的な供給・利用システムを構築し、林業の収益事業化を実現するのが目的。兵庫県佐用町、愛媛県宇和島市、愛媛県久万高原町の実証事業箇所において、実証事業パートナーである国立大学法人東京農工大学(東京)と事業内容を分担して実施する。実施期間は 2023 年度～2028 年度の予定【(株) ジャパンインベストメントアドバイザー:2023/12/06、NEDO:2023/08/08】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7172/tdnet/2370348/00.pdf>

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100372.html

■静岡県西伊豆町、木質バイオマス発電事業を運営する地域商社設立を検討中。町議会 12 月定例会で明らかに。山林の間伐で発生する木材などを町内で活用し、新たな産業を確立する考え。町によると、首都圏企業などと共同で新産業の創出を目指す「森と海の 6 次産業化プロジェクト」の一環で、2024 年 2 月まで民間企業と協議を重ねた上で立ち上げの可否を判断する【あなたの静岡新聞:2023/12/07】

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1370620.html>

■北海道下川町、2024 年度からイチゴハウスにバイオマス熱供給。ゼネコン大手戸田建設(株)(東京)と下川町は、2023 年 7 月 18 日に地方創生に関する包括連携協定を締結しており、具体的な取り組み内容として「夏秋イチゴを中心とした新しい『下川ブランド』の定着化」や「バイオマス熱供給、太陽光発電システムなど再生可能エネルギーを利用した環境負荷低減農業の実践」等を掲げている。この時既に、町内の一の橋地区で戸田建設が行っている夏秋イチゴのハウス栽培に太陽光などの再生可能エネルギーを活用していると報道されていたが、来年度からは町の地域熱供給施設に導入されている、スイスの SCHMID 社製木質バイオマスボイラから熱供給する方針【北海道新聞:2023/12/08、戸田建設(株):2023/07/19、北海道新聞:2023/07/21】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/950819/>

https://www.toda.co.jp/news/2023/20230719_003230.html

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/881380/>

■(株) 奥村組(大阪)、神鋼商事(株)(大阪)、丸紅クリーンパワー(株)(東京)および大成建設(株)(東京)の 4 社で、北海道石狩市の新港工業団地内および厚田地区に早生樹種等を植樹する実証事業を開始。植林面積は各 0.2ha 程度で栽培種はヤナギとハンノキ。事業の一部は(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場との共同研究であり、同機構が生育の早いヤナギ品種のさし穂並びに超短伐期栽培に関する知見を提供。また、新港工業団地内の植樹は石狩市の協力で市有地に行っている。同実証事業は植樹した早生樹を石狩市内のバイオマス発電所で燃料の一部として使用することを見据えたものであり、地産地消によるエネルギー事業の可能性を検討していく【(株) 奥村組:2023/12/13】

[https://www.okumuragumi.co.jp/newsrelease/2023/post-](https://www.okumuragumi.co.jp/newsrelease/2023/post-45.html)

[45.html](https://www.okumuragumi.co.jp/newsrelease/2023/post-45.html)

■大阪ガス(株)(大阪)、兵庫県姫路市広畑地区にある「広畑バイオマス発電所」が 12 月 14 日に商業運転開始したと発表。同発電所は大阪ガス 100%子会社の Daigas ガスアンドパワーソリューション(株)(大阪、以下「DGPS」)が 90%、九電みらいエナジー(株)(福岡、以下「KME」)が 10%出資する広畑バイオマス発電(株)(兵庫)が運営。日鉄エンジニアリング(株)(東京)が建設工事を受注しており、12 月 21 日に建設工事を竣工したと発表している。総事業費は非公表だが、数百億円という。バイオマス専焼発電所としては国内最大級となる発電出力約 7.5 万 kW で、一般家庭約 16 万世帯分の電力を生み出す。燃料には輸入木質チップと PKS のほか、大阪ガス子会社の(株)グリーンパワーフュエル(大阪、以下「GPF」)から調達する国産木質チップを使用。GPF は大阪ガス、西信森林資源(株)(三重)、日本製紙木材(株)(東京)の 3 社合弁で 2019 年 3 月に設立し、国内のバイオマス発電所向けに国産木質バイオマスの調達・搬送・販売を行っている事業会社。2021 年 12 月に兵庫県宍粟市と早生樹による安定的なバイオマス燃料供給体制の構築を目指す実証事業に係る協定を締結しており、Daigas グループは、国産バイオマス燃料の調達拡大に加え発電燃料として「早生樹」の利活用の検討等に取り組むとしている【ひょうご経済+、PR TIMES:2023/12/14、日鉄エンジニアリング(株):2023/12/21】

<https://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/202312/0017130254.shtml>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000112.000003079.html>

<https://www.eng.nipponsteel.com/news/2023/20231221.html>

■長野県長野市、バイオマス燃料製造を目指す中小企業に補助金。長野市のバイオマス産業都市構想に位置付けた事業化プロジェクトの推進及びバイオマスの新たな利活用の推進を図るのが目的。産業廃棄物処理業や木材・食品を扱う製造業などを想定しており、自社でのバイオマス燃料の製造を目指す企業を対象とする。対象経費はバイオマス燃料の製造試験に要する経費のうち、木材をチップ化するための粉碎機、熱量計、含水率計等の機械装置の使用料若しくはリース料又は分析を外部委託した場合にかかる費用。補助率は対象経費の1/2以内、上限50万円。令和6年度予算による補助金交付となり、応募期間は2023年12月1日～2024年1月15日まで。2023年度の募集件数は4件程度の予定【日本経済新聞：2023/12/14、長野市：2023/12/01】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC1458C0U3A211C2000000/>

<https://www.city.nagano.nagano.jp/n145000-3/contents/p005567.html>

■木質バイオマス発電所を核にレストランや遊び場を備えた複合施設「高梁グリーンパーク」が2024年春、岡山県高梁市内にオープン。12月15日、住民や市の職員を招いて内覧会を開催。温浴施設「朝霧温泉ゆ・ら・ら」が2013年に閉館し、岡山市の情報通信会社（株）エヌディエスが約1億1,000万円で高梁市から土地と施設を譲り受けて整備したもの。発電所の年間発電量は1,580万kWhで、一般家庭約4,300戸分の年間使用量に相当。発電に必要な3万t/年の間伐材などは高梁市や新見市から仕入れる。施設のレストランでは、麴などの発酵食品を使った料理が提供される。高梁グリーンパークは2024年3月下旬に発電所が完成し、4月上旬にオープンする予定【テレビせとうち、TBS NEWS DIG：2023/12/15】

<https://www.webtsc.com/prog/news/news/19815/>

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/896748?display=1>

■テスホールディングス（株）（大阪）、インドネシアに PKS 燃料販売事業のためのストックパイルを新たに開設。同社連結子会社でありインドネシアにおいて PKS 燃料販売事業を行う PT INTERNATIONAL GREEN ENERGY（以下「IGE」）が、インドネシアのスマトラ島北スマトラ州に位置する Belawan（ベラワン）にストックパイル（PKS 燃料の保管倉庫・出荷拠点）を開設。このストックパイルから12月14日に日本国内のバイオマス

発電事業者との長期販売契約に基づく PKS 燃料を約1万t初出荷した。同社グループは2020年4月より IGE における PKS 燃料販売を開始。2023年11月末時点で累計約32万t（内、GGL 認証燃料：約5,000t）の PKS 燃料を出荷してきた。ストックパイル増設により安定的な供給が可能になり、年間取扱量が増加することでより多くの PKS 燃料に対するニーズに応えられるとしている【テスホールディングス（株）：2023/12/18】
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2373553/00.pdf>

■World Bioenergy Association (WBA)（スウェーデン）、「Global Bioenergy Statistics 2023」レポートを発行。レポートの主要なハイライトは「化石燃料 VS 再生可能エネルギー」、「電力セクターの動向」、「再生可能エネルギーによる熱生産」等。下記サイトよりダウンロード可【WBA：2023/12/19】

<https://www.worldbioenergy.org/news/763/47/WBA-publishes-the-Global-Bioenergy-Statistics-2023-report/>

■11月30日からアラブ首長国連邦（UAE）のドバイで開かれていた国連気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）が12月13日に閉幕。パリ協定の目標達成に向けた世界全体の進捗状況を評価する初のグローバル・ストックテイク（GST）の成果文書などを採択した。COPとしては初めて「化石燃料からの脱却」に向けたロードマップを承認したが、長く求められてきた石油、石炭、ガスの「段階的廃止」を合意に盛り込むまでには至らなかった。「2030年までに再生可能エネルギー容量を世界全体で3倍に拡大する」などの文言が盛り込まれた一方、「ゼロ排出・低排出技術」の一つとして原発も追加されている。この会期中に米国や日本など22か国が宣言した2050年までに「原子力発電容量3倍（2020年比）」には国際環境NGOから批判の声が相次いでおり、成果文書として採択後も認定特定非営利法人 FoE Japan（東京）が「見解：原発は気候危機対策を妨げる～COP28 成果文書をうけて」を出すなど、批判している。COP28 で日本は温暖化対策に後ろ向きな国に与えられる「化石賞」を受賞。化石賞は環境NGOが温暖化対策に後ろ向きな国に贈るもので、日本は4年連続受賞している。次回 COP29（2024年11月11日～22日）開催国はアゼルバイジャンに決定【環境新聞：2023/12/20、国際連合広報センター：2023/12/26、Yahoo! Japan：2023/12/06、認定特定非営利法人 FoE Japan：2023/12/13、alterna：2023/12/05、環境省：2023/12/18】

<https://www.kankyo-news.co.jp/news/90fd2266-52dc-406f-8688-07c1b2c6f4ba>

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/49291/

<https://news.yahoo.co.jp/articles/4804521badec32a3b8ed0187ec5fea3d114266ff>

<https://foejapan.org/issue/20231213/15411/>

<https://www.alterna.co.jp/107229/>

https://www.env.go.jp/press/press_02429.html

■日鉄エンジニアリング（株）（東京）、廃棄物処理設備「シャフト炉式ガス化溶融炉」向けの「バイオマスコークス」の製造技術を独自開発し、シャフト炉の実機に適用できることを確認したと発表（12月19日）。同社はシャフト炉の還元剤として

利用する石炭コークスから発生するCO₂を抑制しカーボンニュートラル化を推進するため、操業技術の最適化や低炭素型シャフト炉の開発などによるコークス使用量の極小化に取り組むとともに、オガ炭など一般に流通するバイオマスコークスで代替性の検証を行ってきた。東部知多衛生組合（愛知）の協力のもと、東部知多クリーンセンターで実機試験を実施したところ、バイオマスコークスで100%代替可能であることを確認。今後は社会実装に向けた取り組みを加速していく【産業新聞：2023/12/20、日鉄エンジニアリング（株）：2023/12/19】
<https://www.japanmetal.com/news-t20231220131757.html>
<https://www.eng.nipponsteel.com/news/2023/20231219.html>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

2. ペレット関連情報

■（株）レノバ（東京）、同社発電所由来の「トラッキング付きFIT非化石証書」提供サービス開始へ。本サービス開始に向け、現物の電力や非化石価値の取引所を運営する（一社）日本卸電力取引所（東京）の非化石価値取引会員（仲介）に入会。自社が提供しているフィジカルPPAおよびバーチャルPPAより導入の難易度が低く、需要家から足元のソリューションとしてニーズのある「トラッキング付きFIT非化石証書」の提供サービスを、2024年5月（2023年度第4回オークション）より開始する。同社が保有するFIT発電所由来のトラッキング情報の付与（設備特定割当）を予定しており、需要家が当該発電所を公表することも可能に【（株）レノバ：2023/11/24】

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20231124_01_PRESS.pdf

■東北電力（株）（宮城）、秋田県能代市にある能代火力発電所（3基で合計180万kW）で実施しているバイオマス燃料の混焼実験で、「ブラックペレット」の割合を高めると発表（11月29日）。同発電所は地元の未利用材からの木質チップに加えて、2021年より木材を加熱して半炭化・ペレット化させたバイオマス燃料「ブラックペレット」の混焼実験に向けた検討を開始。貯蔵や運搬、燃焼の各工程で問題がないことを確認したことから、現在混焼率が石炭の1%程度のところを、2024年春にも最大20%まで高める。重量ベースで20%の燃料を石炭からブラッ

クペレットに代えればCO₂を約16%削減でき、化石燃料の使用減にもつながる。ペレットが調達できた段階で混焼率を高める【日本経済新聞：2023/11/29、東北電力（株）：2022/03/16】
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC2923N0Z21C23A100000/>
https://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/ecolog/st_power/220316.html

■電源開発（株）（東京）、10月から二酸化炭素（CO₂）分離・回収型酸素吹き石炭ガス化複合発電（IGCC）実証試験設備（16万6,000kW）で石炭とブラックペレットを混ぜるバイオマス混合ガス化を開始。中国電力（株）（広島）と折半出資する大崎クールジェン（株）（広島）で実施。2024年にはバイオマス燃料の比率を5割にする。混合比率50%（熱量ベース）でCO₂を90%分離・回収した場合、発電時に排出されるはずだったCO₂の40%を大気中から実質的に削減できるという。大崎クールジェンでは実証実験開始に先立ってバイオマス石炭混合ガス化研究事業に係る環境調査を実施し、報告書を公表している【NIKKEI GX：2023/11/28、電気新聞：2023/12/08、大崎クールジェン（株）：2023/09/29】
<https://www.nikkei.com/prime/gx/article/DGXZQOUC201YS0Q3A121C2000000>
<https://www.denkishimbun.com/archives/334572>

<https://www.osaki-coolgen.jp/notice/2023/09/post-89.html>

■カナダの森林専門家や環境 NGO ら、経産省に輸入バイオマス支援中止を求める書簡提出（11 月 29 日）。日本のバイオマス発電促進による燃料需要の拡大により、カナダの原生林の伐採が進んでいる実状を訴えた。カナダ・ブリティッシュコロンビア州で活動する森林攪乱生態学者のミシェル・コノリー氏は木質ペレットの需要をまかなうため同州の豊かな原生林が伐採され、多様な野生生物の生息地が脅かされていることなどを語った。書簡では森林や土壌の炭素貯留を減少させていることについても指摘し、気候や森林を破壊する輸入バイオマス燃料を使うバイオマス発電への支援中止を求めている。書簡には FoE Japan など、日本、カナダ、アメリカ、EU、インドネシア、マレーシア、オランダ、ガーナ、チリなどの 19 の環境 NGO が連名しており、下記サイトで公開されている【認定特定非営利活動法人 FoE Japan：2023/11/30】

<https://foejapan.org/issue/20231129/15129/>

■イーレックス（株）（東京）、「イーレックス新潟（仮称）建設計画に係る環境影響評価方法書」及びこれを要約した「要約書」を 11 月 30 日に経産大臣へ届け出、新潟県知事、新潟市長、聖籠町長へ提出。方法書及び要約書の説明会ならびに縦覧を開始。同発電所建設予定地は新潟県北蒲原郡聖籠町東港にある ENEOS が所有するゴルフコースの一部で、敷地面積は約 56 万 m²。発電出力は約 30 万 kW の見込みで新設バイオマス発電所では世界最大級。草本系のソルガムペレットをベトナム等から、木質ペレットを東南アジアから輸入し、約 120 万 t/年使用する計画。2026 年度に着工し、2029 年度の運転開始を目指す。縦覧期間は 2023 年 12 月 1 日～2024 年 1 月 5 日（インターネットによる公表は 1 月 19 日）まで【イーレックス（株）：2023/12/01、建設通信新聞：2023/12/04】

<https://www.erec.co.jp/news/information/2565/>

<https://www.kensetsunews.com/archives/898784>

■愛知海運（株）（愛知）、蒲郡港に木質ペレットなどを船舶から陸地へ荷揚げする荷役機械「スクリュアンローダー」を導入。ペレットをスクリュアで筒の中へ巻き上げるため、周辺への粉じんの飛散を防ぐことが可能に。同機械の導入は中部地方では初。2023 年 8 月に商業運転を開始した「愛知蒲郡バイオマス発電所」（発電出力 50MW）へ木質ペレットなどを供給する

際に活用する。同発電所は中部電力（株）（愛知）、丸紅（株）（東京）、テラスエナジー（株）（東京）が共同で設立した愛知蒲郡バイオマス発電合同会社が建設し、タイ産の木質ペレット約 10 万 t/年およびインドネシア産の PKS を約 13 万 t/年使用する。荷役機械の投資額は約 15 億円【中部経済新聞 2023/12/04、愛知蒲郡バイオマス発電合同会社】

<https://www.chukei->

news.co.jp/news/2023/12/04/OK0002312040201_01/

<https://aggbio.com/>

■製材・集成材等を製造販売する（株）サイプレス・スナダヤ（愛媛）、2023 年 9 月より木質ペレットの製造開始。国産ヒノキが主体、一部国産スギやその他の針葉樹を使って製材や集成材を製造する過程で発生する「プレーナー粉（カンナくず）」をそのまま圧縮・成型したホワイトペレット。各種バイオマスボイラやペレットストーブ向け燃料としての用途の他、ヒノキの香り高い「ネコ砂」としても利用できる、としている【愛媛新聞 ONLINE：2023/12/05、（株）サイプレス・スナダヤ：2023/11/15】

<https://www.ehime-np.co.jp/article/news202312050025>

<https://www.sunadaya.co.jp/information/info20231115>

■今年 9 月に鳥取県米子市にある米子バイオマス発電所で発生した火災について、発電所が「爆発が連続的に発生し、粉じん爆発を引き起こした」とする調査の途中経過を国に報告。燃料の木質ペレットを搬入する施設で爆発を伴う火災が発生し、3 か月近くたった今も運転を停止している。発電所は外部の専門家を招いて原因を調べており、12 月 4 日に経産省のワーキンググループにおいて調査の途中経過を報告。それによると 2 秒未満の間に連続して爆発が生じ、最初の爆発により粉じんが一気に飛び散って、続く大規模な「粉じん爆発」につながった可能性が高いとしている。また最初の爆発の発火原因については現在も調査中とし、過去に燃料の中に異物が混入していたことがあったため、燃料に金属や岩石などが入り込み、その衝撃や摩擦で着火した可能性があるとしたほか、燃料の発酵による自然発火の可能性もあるとして分析中【FNN プライムオンライン、NHK NEWS WEB：2023/12/06】

<https://www.fnn.jp/articles/-/626180>

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/tottori/20231206/4040016658.html>

■(株)レノバ(東京)、宮城県仙台市にある「仙台蒲生バイオマス(届出名称:社の都バイオマス発電所)」を運営する発電事業者「合同会社社の都バイオマスエネルギー」(宮城)の出資持分の追加取得を決定(12月8日)。同発電所は木質ペレットとPKSを燃料とし、設備容量は74.95MW、想定年間発電量は約55,330万kWh(一般家庭約17万世帯の年間使用電力量に相当)。11月18日に営業運転を開始したばかり。合同会社の出資比率は当初、レノバ29.0%、ユナイテッド計画(株)(秋田)25.0%、住友林業(株)(東京)15.0%、みずほリース(株)(東京)17.0%、RenoDa パートナース合同会社(東京)14.0%となっていた。しかしレノバは共同出資者との間で「持分譲渡に関する覚書」に基づき、仙台蒲生バイオマスが保有する発電所の完成及びEPCからの引渡し以降、一部の共同出資者が保有する出資持分を譲り受ける権利を有しており、みずほリースとRenoDa パートナースの出資持分を譲り受けた。取得価額は16億2,700万円。これによりレノバの出資比率は60.0%となり、合同会社は同社の連結子会社に【(株)レノバ:2023/12/08、合同会社社の都バイオマスエネルギー】

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20231208_02_PRESS.pdf

<https://mmb-energy.jp/about/>

■徳島県徳島市にある「徳島津田バイオマス発電所」、12月9日に営業運転開始。(株)レノバ(東京)が60.8%、大阪ガス(株)(大阪)が33.5%、(株)フォレストバンク(徳島)が1.9%、(株)ダイリFPC(徳島)が1.9%、徳島電機産業(株)(徳島)が1.9%出資して設立した徳島津田バイオマス発電所合同会社が建設を進めていたもので、当初の計画では今年3月の営業運転開始を目指していたが2度延期し、今回の運開に至った。東南アジアの木質ペレットとPKSを燃料とし、出力は74.8MW、想定年間発電量は約5億kWh(一般家庭約15万世帯の年間使用電力量に相当)。今年5月から11月中旬にかけて、周辺住民から「異臭がする」といった内容の苦情や相談が徳島市に寄せられていたが、合同会社が燃料に使うPKSが夏の高温で発酵が進んで臭いが発生し、風の向きにより住宅街に流れ込んだ可能

性があるとみていて、消臭剤の散布や発酵を抑えるためかき混ぜるなど対策を取ることにしている。同発電所は徳島小松島港内に立地しており、燃料輸送船の発着に伴う港湾施設の活用やそれに伴う新たな雇用創出など、港湾の再活性化も期待されている【JRT 四国放送:2023/12/12、(株)レノバ:2023/12/11】

<https://news.ntv.co.jp/n/jrt/category/society/jr2d6ce7cde028425aa018a7b29d0f7717>

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20231211_01_PRESS.pdf

■テスホールディングス(株)(大阪)、連結子会社のPT PTEC RESEARCH AND DEVELOPMENT(インドネシア、以下「PTEC社」)が、12月13日付で、インドネシア国営のパーム農園企業であるPT Perkebunan Nusantara III(以下「PTPN社」)と農作物残渣由来のバイオマス燃料である「EFBペレット製造事業に伴うカーボンプレジット創出」に関する基本合意書(以下「MOU」)を締結したと発表。同社グループは2018年に農作物残渣をバイオマスペレットに加工するための研究開発拠点としてインドネシアにPTEC社を設立。パーム油産業の代表的な未利用残渣物であるEFB等をはじめとする様々な「農作物残渣原料をバイオマスペレット化するノウハウ」を蓄積してきた。2022年12月にはPTPN社と「EFBペレット製造事業」に関する協定書を締結しており、EFBの有効活用に向けた取り組みを進めている。今回のMOUはパーム農園に放置されているEFBをペレットとして有効活用することにより腐敗によるメタンガスの発生を抑制し、削減された温室効果ガスの排出量について、カーボンプレジット創出の実現可能性を調査することに合意するもの。12月18日に政府主催で開催された「アジア・ゼロエミッション共同体(AZEC)首脳会合」でも、アジアの脱炭素化に向けた取り組みに関するMOUの事例の一つとして資料に取りまとめられた【テスホールディングス(株):2023/12/13、2023/12/19】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2371980/00.pdf>

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2374040/00.pdf>

3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

<https://www.iges.or.jp/jp/events/20240118>

■NPO 法人京都・森と住まい百年の会、他「生活の中から、日本の森林・林業を考えるシンポジウム ライフ・アンド・フォレスト+『第3回 木を植える人 森を育てる人』

2024年1月7日（日）

キャンパスプラザ京都第4講義室（京都府京都市）/ zoom ミーティング

<http://www.sainoki.org/info240107.html>

■東京都「WOOD コレクション（モクコレ）2024」

2024年1月11日（木）～12日（金）

東京ビッグサイト 西1・2ホール（東京都江東区）

<https://www.mokucolle.com/jp>

■（株）JPI（日本計画研究所）「バイオマス・バイオ燃料事業に関する政策動向と事業戦略策定のポイント」

2024年1月12日（金）

JPI カンファレンススクエア（東京都港区）/ライブ配信

https://www.jpi.co.jp/seminar/16772?utm_source=prtmes

■全国森林組合連合会「林業経営力強化シンポジウム ～「人」と「ICT」林業の新時代～」

2024年1月15日（月）～16日（火）

国立オリンピック記念青少年総合センター（センター棟102室）（東京都渋谷区）

http://www.zenmori.org/topics/525_list_detail.html

■（公財）自然エネルギー財団「自然エネルギー財団新春セミナー 自然エネルギー3倍化の展望 COP28 決定を受けて」

2024年1月17日（水）

虎ノ門ヒルズフォーラム ホールB（東京都港区）

<https://www.renewable-ei.org/activities/events/20240117.php>

■（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）、他「COP28 報告シンポジウム」

2024年1月18日（木）

オンライン配信

■（公財）自然エネルギー財団「ネットゼロに向けたバイオエネルギー：世界的議論を踏まえた日本における今後の展開」

2024年1月18日（木）

虎ノ門ヒルズフォーラム ホールB（東京都港区）

<https://www.renewable-ei.org/activities/events/20240118.php>

■兵庫県シンポジウム「里山と生物多様性保全と木質バイオマスエネルギーの活用を考える」

2024年1月19日（金）

四季の森生涯学習センター多目的ホール（兵庫県丹波篠山市） ※Web 配信あり

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/tnk11/20231124baio.html>

■再生可能エネルギー協議会「第18回再生可能エネルギーフォーラム」

2024年1月22日（月）～30日（火）

オンライン

<https://jcreevent.org/2024forum/>

■NEDO,他「EEDF 第13回日独エネルギー・環境フォーラム『気候変動対策のための循環型経済』

2024年1月25日（木）～26日（金）

ステーションコンファレンス川崎（神奈川県川崎市）

https://www.nedo.go.jp/events/AT09_100113.html

■EPO 北海道、他「北海道地方 ESD 活動支援センター地域フォーラム 動物たちと考える気候変動～札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト～」

2024年1月26日（金）

札幌円山動物園科学館ホール（北海道札幌市）及びオンライン

<https://epohok.jp/event/17547>

■バイオマス産業社会ネットワーク（BIN）第219回研究会「製鉄に関する脱炭素のグローバル動向～コークス代替としてのバイオマス利用の課題など（仮題）」

2024年1月26日（金）

地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）および
ZOOMによるオンライン

<https://www.npobin.net/>

■（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会 令和5年度
第2回勉強会「令和6年
度木質バイオマスエネルギー関連施策について」
2024年1月30日（火）
オンライン（ZOOM）

<https://jwba.or.jp/topics/events/topics20231227/>

※会員限定

■（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所「令和5年度
国際セミナー『森林による防災・減災技術の国際展』」

2024年1月31日（水）

TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町プレミアムボールルーム
（東京都千代田区）/Zoom ウェビナー

http://redd.ffpri.affrc.go.jp/events/seminars/2024/20240131_ja.html

■再生可能エネルギー協議会「第18回再生可能エネルギー世
界展示会」

2024年1月31日（水）～2月2日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://jcreevent.org/2024forum/>

■脱炭素チャレンジカップ事務局「脱炭素チャレンジカップ
2024」

2024年2月6日（火）

伊藤謝恩ホール(東京都文京区)

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

■JPI(日本計画研究所)JPI セミナー「林野庁：森林由来の吸収
系 J-クレジット活用促進に向けた取り組みの方向性と具体的
な展開について～森林セクターと J-クレジット需要家とのマ
ッチングを強化する方策とは～」

2024年2月21日（水）

JPIカンファレンススクエア（東京都港区）

https://www.jpi.co.jp/seminar/16795?utm_source=prtimes

■RX Japan(株)「第9回【国際】バイオマス展【春】」

2024年2月28日（水）～3月1日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>

■RX Japan（株）スマートエネルギーWeek 春

2024年3月1日（水）～3日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

■（一社）日本森林学会「第135回日本森林学会」

2024年3月8日（金）～11日（日）

東京農業大学世田谷キャンパス1号館（東京都世田谷区）

<https://www.forestry.jp/meeting/meeting-135/>

◎14th Biomass Pellets Trade & Power

2024年5月13日（月）～16日（木）

東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240203&>

◎2024NEW 環境展/2024 地球温暖化防止展

2024年5月22日（水）～24日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.n-expo.jp/>

4. イベント情報（海外）

■The European Bioenergy Landscape

2024年1月18日（木）

ブリュッセル（ベルギー）

<https://bioenergyeurope.org/events/11-events/408-the-european-bioenergy-landscape.html>

■21st International Conference on Renewable Mobility “Fuels of
the Future 2024”

2024年1月22日（月）～23日（火）

ベルリン（ドイツ）

<https://www.fuels-of-the-future.com/en>

■Bio 360 Expo 2024

2024年1月24日(水)～25日(木)

ナンテ (フランス)

<https://bio360expo.com/>

◎Nordic Pellets Conference 2024

2024年1月31日(水)～2月1日(木)

マルメ (スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2024/>

■ENEX 2024 - International Power Industry and Renewable Sources of Energy Fair

2024年2月7日(水)～8日(木)

キエルツェ (ポーランド)

<https://www.targikielce.pl/en/enex>

■LIGNOFUELS 2024

2024年2月7日(水)～8日(木)

ヘルシンキ (フィンランド)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/lignocellulosic-fuel-conference-europe/>

■Low Carbon Fuels Summit

2024年2月27日(火)～28日(水)

シンガポール

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240202&>

◎7th Biomass Trade & Power Europe

2024年2月28日(水)～29日(木)

コペンハーゲン (デンマーク)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240203&>

■Progetto Fuoco

2024年2月28日(水)～3月2日(土)

ヴェローナ (イタリア)

<https://www.progettofuoco.com/en/>

■2024 International Biomass Conference & Expo

2024年3月4日(月)～6日(水)

ヴァージニア州リッチモンド (USA)

<https://2024->

[ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home](https://www.ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

◎Argus Biomass Asia Conference

2024年3月5日(火)～7日(木)

シンガポール

<https://www.argusmedia.com/ja/conferences-events-listing/biomass-asia/speakers>

■World Sustainable Energy Days

2024年3月5日(火)～8日(金)

ヴェルス (オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference>

◎European Pellet Conference 2024

2024年3月6日(水)

ヴェルス (オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference>

■ZENTRUM WALD FORST HOLZ

2024年3月21日(木)

フライジング (ドイツ)

<https://dfuv.eu/veranstaltungen/kategorie/veranstaltungen/>

■WFES 2024 - World Future Energy Summit

2024年4月16日(火)～18日(木)

アブダビ (アラブ首長国連邦)

<https://www.worldfutureenergysummit.com/>

◎Argus Biomass Conference

2024年4月23日(火)～25日(木)

ロンドン (UK)

https://www.argusmedia.com/conferences-events-listing/biomass?utm_source=conf-partner&utm_medium=referral&utm_campaign=euaf-erc-2024-04-bim-biomass&utm_content=euaf-erc-2024-04-bim-biomass-eu-be-listing-12-23

■BOILER 2024 | ABMA Boiler Technology Conference & Expo

2024年5月1日(水)～3日(金)

コロラド州デンバー (USA)

<https://abmaboilerexpo.com/>

■Waste Expo

2024年5月6日(月)～9日(木)

ネバダ州ラスベガス (USA)

<https://www.wasteexpo.com/en/home.html>

■ALL ENERGY EXHIBITION AND CONFERENCE 2024

2024年5月15日(水)～16日(木)

グラスゴー (UK)

<https://www.all-energy.co.uk/>

◎European Pellets Forum 2024

2024年5月28日(火)

ナンテ (フランス)

<https://pellet-forum.eu/>

◎Propellet

2024年5月29日(水)

ナンテ (フランス)

<https://pellet-forum.eu/>

■Carbon Capture & Storage Summit

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

[http://fuel ethanol workshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon Capture Storage Summit](http://fuel ethanol workshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon_Capture_Storage_Summit)

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■Biodiesel Summit: Sustainable Aviation Fuel & Renewable Diesel

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://few.bbiconferences.com/Biodiesel.html>

■International Biogas Congress & Expo

2024年6月18日(火)～19日(水)

ブリュッセル (ベルギー)

<https://bioenergy-news.com/conference/about-biogas/>

■26th IUFRO WORLD CONGRESS

2024年6月23日(日)～29日(土)

ストックホルム (スウェーデン)

<https://iufro2024.com/>

■EUBCE 2024 - 32nd European Biomass Conference and Exhibition

2024年6月24日(月)～27日(木)

マルセイユ (フランス) /オンライン

<https://www.eubce.com/>

■2024 International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

[https://2024-](https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

[few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home](https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

■2024 Biodiesel & Renewable Diesel Summit

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

[https://2024-](https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Biodiesel_Summit_Sustainable_Aviation_Fuel_Renewable_Diesel)

[few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Biodiesel Summit Sustainable Aviation Fuel Renewable Diesel](https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Biodiesel_Summit_Sustainable_Aviation_Fuel_Renewable_Diesel)

■2024 Carbon Capture & Storage Summit

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

[https://2024-](https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon_Capture_Storage_Summit)

[few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon Capture Storage Summit](https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon_Capture_Storage_Summit)

■FinnMETKO 2024

2024年8月29日(木)～31日(土)

ヤムサ(フィンランド)

<https://www.finnmetko.fi/>

■North American SAF Conference & Expo

2024年9月11日(水)～12日(木)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

■Elmia Wood

2025年6月4日(水)～7日(土)

ヨンショーピング(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/en/wood/>

5. 公募等情報(締切順)

■(一社)産直ドミノ基金®「産直ドミノ基金®アワード2023」

応募期間 2023年11月14日(火)～2024年1月9日(火)

<https://www.dominos.jp/sanchoku/charity/koubo>

■(一財)サンライズ財団「2024年度環境助成金」

申請受付期間 2023年10月25日(水)～2024年1月14日(日)

<https://www.philanthropy.or.jp/sunrise/2024/>

■静岡県浜松市「浜松市木質バイオマス設備導入支援事業費補助金」

受付期間 2023年4月21日(金)～2024年1月31日(水)

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/shin-ene/new_ene/mokushitsuhojokin.html

■栃木県「今すぐ始められる脱炭素の取組を紹介します！(脱炭素普及啓発事業)」

募集期間 2023年4月12日(水)～2024年2月中旬まで

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/hukyuukehatsu.html>

■長野県「令和5年度信州健康ゼロエネ住宅助成金」

募集期間 2023年11月1日(水)～2024年3月15日(金)

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kenchiku/kenkzeroene/joseikin.html>

■長野県塩尻市「塩尻市木質バイオマス利用設備設置費等補助金(ペレットストーブ、ペレットボイラー用燃料)」

申請書受付期間 2023年4月3日(月)～2024年3月15日(金)

<https://www.city.shiojiri.lg.jp/soshiki/30/2997.html>

■兵庫県宍粟市「宍粟市再生可能エネルギー利用促進事業補助金(木質バイオマス燃料製造設備導入費用助成)」

受付期間 2023年4月3日(月)～2024年3月15日(金)

<https://www.city.shiso.lg.jp/soshiki/sangyo/rinngyousinnkou/ta-ntoujyohou/shinenerugi/1515747696234.html>

■農水省大臣官房環境バイオマス政策課「農林漁業バイオ燃料法に基づく事業計画、支援措置(固定資産税の特例等)」

固定資産税の特例の適用期限 ～2024年3月31日(日)まで

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/>

■林野庁「『森ハブ・プラットフォーム』参画企業・団体等を募集」

https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/ken_sidou/230904.html

■岐阜県美濃加茂市「美濃加茂市里山千年構想推進業務補助金」

https://www.city.minokamo.gifu.jp/shimin/contents.cfm?base_id=11257&mi_id=1&g1_id=9&g2_id=0

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県木質資源利用促進事業費補助金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030501/2019022200068.html>

■高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

■高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

■高知県仁淀川町「仁淀川町再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

http://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG0000129.html#e000000030

■北海道「林業・木材産業改善資金」

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/kaizennshikinn.pdf>

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料普及拡大推進事業補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=24564>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料高騰対策事業補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=25479>

■栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyou/ondanka/syoutene-setubi-yuusi.html>

※融資制度

■徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5007685/>

※融資制度

■奈良県「新エネルギー等対策資金」

<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

■（公財）日本環境協会「令和2年度環境配慮型融資促進利子補給事業」

https://www.jeas.or.jp/activ/prom_24_00.html

※融資制度

■神奈川県横浜市「よこはまプラス資金（環境・エネルギー対策）」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/plus/hozenshikin.html>

※融資制度

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

※融資制度

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

※融資制度

■千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

■千葉県市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittigaido.html>

■NEDO「2024年度『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業』に係る公募について」【予告】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100387.html

※2024年3月上旬から1カ月間公募予定